



便秘のお薬のおはなし



(2020 10/1)

最近、コロナ禍による地域・学校での運動量減少の影響か、便秘の患者様が増えています。高齢者においては便秘が寿命に影響するとも言われています。小さい頃から早めの対策を心がけましょう。ここでは小児で使用されるお薬についてお話したいと思います。(便秘の症状や予防について関心を持たれた方は、院内配布物もぜひご覧ください！)

【治療のアプローチ】

① 動きを良くするお薬



ぜんどううんどう

便は腸のうねうねする動き(蠕動運動といいますが)によって、胃→肛門へ押し出されて排出されます。その“うねうね”を助けることで排便を促します。ピコスルファートナトリウム(商品名「ラキソベロン」)が有名ですが、蠕動運動による腹痛や長期使用により効きにくくなる場合があります。

② 水分を含ませるお薬



腸内-外の浸透圧を調整することで、大腸での水分吸収を邪魔して便の柔らかさを保ち“つるん”と便を排出します。モビコールやラクツロース(商品名「モニラック」)、酸化マグネシウムなどがありますが、前者2つはやや飲みにくく、後者では使用量が多い場合ミネラルの血中濃度に注意する必要があります。

③ お尻に入れるお薬



肛門付近で栓になっている様な便に対して、周りの腸に刺激を加えることで排泄を促します。グリセリン浣腸やテレミン坐剤などがありますが、大腸でも上の方に溜まった便では効きにくいこともあります。

このようなお薬を、基本的には②から1種類ずつ試してみて排便の具合をみるのが基本的な治療となります。目標は下記イラストの3~5番の便が1日1回ぐらいです。

